

女川町 支援活動レポート

2012.9.22 ~ 2012.9.23

(宮城県牡鹿郡女川町 清水地区仮設住宅にて)



頑張ろう日本！ 頑張ろう東北！



平成24年9月30日(日)
東北被災地応援団 白金支部
工藤 史大

女川町 支援活動レポート

このたびの東日本大震災により、亡くなられた方のご冥福を、心からお祈り申し上げますとともに、被災された皆様に対し、心からお見舞い申し上げます。被災地の一日も早い復興を、心からお祈り申し上げます。

1. はじめに

東日本大震災より1年と半年が経過しました。

東京では何事もなかったかのように、“普通の生活”に戻っております。

東北の被災地域のことは、話題にもあがらなくなってきました。

たまに聞くのは、「もう復興してるんだよね」、「仮設住宅に入ってるから大丈夫なんだろう」などで、とても悲しい気持ちになります。

1度でも足を運び、沿岸部の状況を見てもらえれば、未だ有事の状態にあり、全く“普通の生活”に戻れてはいないこと、理解いただけるのではないのでしょうか。

皆様の暖かいご支援、ご協力のもと、活動をして参りました我々が、感じて来た今の女川町を、ご報告させていただきます。

まだまだ、有事にある女川町は、今後も継続的な関わりを必要としている事を、ご理解頂けますと幸いです。

2. 現在の女川町について

9月23日(日)に女川町の大きなイベントの一つであります「第15回 秋刀魚収穫祭」が開催されました。

昨年よりも開催規模が大きくなり、町内外より12000人の方が参加され、大変盛り上がりました。

我々も午前中の少しの時間ですが、参加メンバーで立ち寄り、雰囲気味わってきました。

無料配布される秋刀魚の塩焼き、すり身汁には行列ができ賑わい、ステージではリアスの戦士イーガーショーがご当地ネタを織り交ぜながら子供から大人まで夢中にさせていました。

主な運営スタッフの方が、今後の女川町を牽引していかれるのは間違いないでしょう。



熊野神社から見た女川港



女川港側にある「がんばっぺ女川」の看板

3. 活動報告

今回現地入りしたのは、19名です。うち2名はパフォーマーの方に同行いただきました。

車5台(内1台はレンタカー)に分乗し、女川町を訪問しました。

訪問先は、宮城県牡鹿郡女川町の「清水地区仮設住宅 144世帯 364名」。

女川町では大きな仮設住宅のうちの1つです。

以下を開催しました。

ワークショップ（女川名物 秋刀魚のすり身汁をお母さん方に習おう）
夕食会（秋刀魚のすり身汁と一緒に作り、一緒に食べましょう！）
三味線演奏・パフォーマンス（フェイスペイント、パフォーマンス）
ミニ花火大会

ワークショップ用の秋刀魚は、生秋刀魚を地元の鮮魚店「おかせい」さんで購入、秋刀魚すり身汁の冷凍すり身は同じ女川町内のワイケイ水産さんにて購入。豆腐や野菜類も仮設のコンテナ村商店街にて購入しました。

我々の活動をきっかけに、多くの方に仮設住宅より出てきていただき、コミュニティの形成を作るサポートを目的としました。

以下、活動内容について報告いたします。

(1) 準備期間

準備期間：2012/7月上旬～2012/9/21

(2) 支援活動内容

A. ワークショップ

・生秋刀魚 30匹

B. 夕食会（秋刀魚のすり身汁）

・冷凍すり身 36kg

・豆腐、ネギ、大根 適数

・ビールサーバー 4個

・日本酒、焼酎 1～2本

C. 三味線演奏・パフォーマンス 三味線奏者1名、パフォーマー2名

D. ミニ花火大会（手持ち花火） 300本

(3) 活動レポート

今回も前回同様、夕方に屋外での活動とした。

次回11月の再訪では、日が沈む時間と寒さの為、日中の活動に戻る予定。

我々が初めて作る“女川名物 秋刀魚すり身汁”。事前の打合せのため、8月に清水地区を訪れた。

女川のお母さん方に習うにも、材料の準備や作り方の把握は必要。

夕方ならば、参加出来るお父さん方に出てきて頂きたい為であった。

もちろん、冬も夕方の活動を行いたいですが、日没が早く、寒さがきつくなる時期、我々東京の人間には、事故を伴う可能性が否めない。

2012年8月14日(火)

前日の8月13日(月)に開催された女川常夜灯プロジェクトへのお手伝いに5名で参加。

その翌日に清水地区の高橋自治会長さん、清水さん、梁取さんと打ち合わせ。

清水さん宅に5名でお邪魔し、秋刀魚のすり身汁が、各家庭により具材も味付けも違うことを知る。

狭い仮設住宅だが、とても綺麗に片付けられており、所々に可愛い小物が置いてあった。

2012年9月9日(日)

ミーティング。活動の目的、日程、諸注意など全体に説明。その後各チーム毎に別れてリーダーを中心に細部を説明。

持ち物の最終確認、担当割りの確認、出発前日の積み込み係を決めて終了。

毎回、ミーティングの2時間はあっという間に過ぎる。

2012年9月21日(金) 15時～20時

レンタカーの引取り、荷物、仕分け、車への積み込み。

後方支援者を除くと、平日の昼間に動けるメンバーは少なく、半休をとり手伝う者や、仕事の調整をし駆けつける者で準備を進める。

道具類は保管スペースのなさより、3箇所に分かれているため、使用道具を集めるだけでも車輛が必要。

モランボンさんよりお米が届く。

2012年9月22日(土) 6時

集合。遠くより参加するメンバーは始発に乗ってギリギリ間に合う時間。
半袖のシャツでは薄ら寒い気温だが、天気は快晴。
いつもの天現寺ICより女川を車輛4台で目指す。
お彼岸中日のせいか、首都高速～東北自動車道とかなりの渋滞。
13時。予定より30分遅れにて、女川町復興支援センターに到着。帰ってきた感を感じながら少しほっとする。
パフォーマーのジョーイさん、さとうさんとも合流。
女川町の美味しい食事を各々堪能した後、使用する材料をお店で引取り、清水地区仮設住宅にて最終ミーティング。
メンバーの瓜田を中心に円陣を組み、それぞれのチームに別れて活動を開始。



早速、準備を開始



現地での最終ミーティング



熊野神社にて

以下、活動内容は、各チームリーダーの報告によります。

◆ワークショップチーム（女川名物 秋刀魚のすり身汁をお母さん方に習おう）

リーダー：三上

メンバー：相原、瓜田、小林、石垣 計5名

幾度も訪問させていただいている、清水地区仮設住宅。最近の訪問の際には、一緒に、たくさん、おしゃべりをしてくださるようになったお母さん方。それならば、そんなお母さん達から、反対に何か発信していただくことは、ないだろうか、と、考え、「女川のソウルフード、秋刀魚のすり身汁の作り方を、お母さん達に習いましょう！」の企画です。

秋刀魚すり身汁と、一言で言っても、各ご家庭により、作り方はもちろん、具の内容、味付けなどは、様々。作り方を私たちが教わり、また、互いの家庭の味を交換することで、交流を図っていただければ、と思いをもっての活動でした。

到着後すぐに、今回のワークショップの企画をお伝えし、事前準備をお願いしていたお母さん方に、ご挨拶。この為に、何人かのお母さん方で集まり、あらかじめお話し合いをしていただいていた、とのこと、本当にありがとうございました。

具材や道具の準備も整い、さあ、調理です。すり身にする秋刀魚は、生の秋刀魚を地元のお店「おかせい」さんより購入。水揚げしたばかりの、きらきら光った、立派な秋刀魚です。まずは、内臓を落とし、残した頭の部分を、魚の背に向かって捻り、皮を剥ぎます。次に残された身を三枚下ろしに。お母さん達の、見事な手捌きに圧倒されながら、私達も見様見真似で、秋刀魚と格闘していると、覗きに来ていたお父さんが、おぼつかない私たちの包丁捌きに業をにやし、包丁を手にとると、手早く内臓を切り落とし、あっという間に、三枚卸に！ 大胆な手捌きに、大胆に内臓とともに削られてしまう身に、目を見張る私達。聞けばお父さん、豊富な海の幸を相手にしている、漁師さんだそうです。そんな、飛び入り参加もありながら、すり身が完成。次は、すり身の味付けです。すった生姜を混ぜる方、つなぎに卵を使う方、小麦粉？いや、家は片栗粉よ！と用意のなかった片栗粉を、走って家に取りにいくお母さん。賑やかに調理が進みます。

5つのお鍋にお湯が沸騰し、いよいよ煮込みです。それぞれの鍋にこだわりの具材が入り、最後にすり身を投入。これもまた、スプーンを使って、身を鍋に落としたり、すり身を親指と人差し指を使って、お団子にしたりと色々です。すり身が一煮立ちし、鍋底から上がってくれば、あとは味の調整で出来上がり。

醤油にお酒のみのシンプルな味、七味が合いそうな味噌味など、いろいろ出来上がりました。最初は、我々メンバーに、勧めてください、私たちが、「おいしい！おいしい！」と、口々に感想をいうと、やはり、他の鍋も気になるようで…

「ちょっと頂戴」と、味の交換の始まりです。でも最後は、皆さん、「家のがやっぱり一番！」、瞬間に鍋が空になり終了です。

活動翌日開催された女川さんま収穫祭を、楽しみにされていることや、すり身汁以外のさんまをつかったお勧め家庭料理のお話、

また季節ごとの楽しい食べ物のお話。ここ、女川を愛してやまない、お母さん方のお話で、時間もあっという間でした。また、お彼岸でもあったこの週末、仮設住宅の暮らしで、お墓参りも行けなかったけれど、お陰で、楽しくおしゃべりできた、と喜んで下さったお母さんの言葉に、心が温まりました。今回は、私達が、お母さん達から教わるという形のワークショップ、初めての試みでしたが、被災から一年半続く、仮設住宅の暮らし、受ける側に立ち続けるのではなく、発信することの喜びを感じていらっしやる様でした。



女川の新鮮な生秋刀魚をさばきます



各家庭の味付けはいかに



温かく見守るお母さん

◆夕食会チーム（秋刀魚のすり身汁を一緒に作り、一緒に食べましょう！）&三味線演奏・パフォーマンス

リーダー…府川、小澤（雅）

ゲスト…クラウンジョーイ、さとうゆみ

メンバー…川端、小澤（徹）、蜜口、藤原、片桐、伊藤

計10名

清水地区に到着すると、すでにさんまのつみれ汁と一緒に作ってくださるお母さん達が集まってお出迎えて下さいました。何度かお邪魔させていただいていた地域でしたので「久しぶり！」と暖かく迎えていただき ホツとする気持ちと嬉しい気持ちになりました。駐車場スペースをイベントの場所として確保してくださっていたり、集会所で先にご飯まで炊いて準備をしてくださっていました。清水地区の方々の優しさ、私達を待っていてくださったお気持ちに大感激!!でした。

今回は、夕食会用の「さんまのつみれ汁とご飯」、「三味線演奏会」、「パフォーマンス」を担当です。設営開始。ターフ、テーブル、椅子などの準備。同時にお母さん方にすり身汁の段取りを教わりながら、夕食会の準備を進めます。大鍋4台にお湯を沸かし、お母さん方が手際良く進めて下さいました。「すり身を入れる時は、このくらいの大きさに切ってどンドン入れるのよ～」と応援団の慣れない手つきに 手取り足取り教えて下さいました。準備が進む中、顔や腕などに可愛いくペイントされた子供達が出現！ さとうゆみさんによるフェイスペイント。子供達は楽しそうに走り回っていました。中には大人の姿も…お彼岸ということもあり出かけていらっしやる方が多い中、出来上がった頃には続々と皆さんが集まって下さり、何度もお代わりする方もいて「美味しい。美味しい。」と召し上がっていただきました。

同時に開催していた三味線演奏会では、一緒に皆で唄ったり踊ったり、本場地元の唄を聞かせてくださったりととても楽しまれてました。つみれ汁をつまみにお酒を飲みながら ゆったりとした時間を過ごしていただいていたように思います。ジョーイさんのパフォーマンスには、子供も大人も目をキラキラさせて、沢山の方が笑顔になっていました。日が落ちるのが早くなったので18時頃からミニ花火大会を開始。手持ち花火だけでしたが子供達は楽しそうでした。残りご飯を「女川で作った海苔なのよ」とご自宅から持って来て、おにぎりを作ってくださいたり、残ったつみれでシソハンバーグを焼いてくださったり どれもとても美味しくて心暖まる味でした。清水地区の皆様方と楽しんだ時間もあっという間に過ぎてしまい片付けもお母さん方にテキパキとお手伝いしていただきスムーズに終わることが出来ました。清水地区の皆様、またいろいろ教えて下さい。有難うございました。



テキパキと料理をする女川のお母さん



うちのすり身汁が1番！！



高橋自治会長と一緒に



津軽三味線と民謡



クラウン・ジョーイさんが楽しませます



さとうゆみさん フェイスペイント

◆ミニ花火大会チーム

リーダー・・・石垣

メンバー・・・後藤、相原、瓜田、伊井

計5名

前回、大好評だったミニ花火大会を今回も実施する運びとなりました。

17時 概ね予定通りに担当メンバーに集合をかけ、子供たちが楽しく安全に花火に興じることができるよう注意点の再確認、花火実施場所、各役割を振り分けて開始時間までは再度自分の持ち場へ。

日も短くなり、薄暗くなってなってくると子供の姿もまばらになり始める。

予定を少し早め、17時15分より花火開始。

子供達も花火を出すと、どこからともなく集まってくる。

皆のはやる気持ちを尻目に諸注意事項を説明。

十数人の子供達が花火をやる。一斉にやる。ひたすらやる。煙い・・・

それでも子供たちは嬉しそうに花火を楽しんでいました。

そんなこんなであつという間に18時半。本当は「もういいよ」って言うくらい楽しんでもらいたいところですが、大人の事情で次の配布が最後である旨を子供たちにアナウンス。

片付けている最中も、仲良くなった子供たちは帰らない。「いつまでいるの～?」「明日も来る?」と。

翌日の秋刀魚収穫祭で会う約束をし、後ろ髪を引かれる思いで撤収。



すり身汁のお味はいかに?



花火で楽しむ子供達。大人も嬉しそう。

◆ヒアリングチーム

リーダー・・・工藤

メンバー・・・後藤(奈)、伊井、安部

計4名

※報告書は安部が代筆

ヒアリングチームは、これまでの活動同様、一軒一軒お訪ねしてお声かけをした。

これまでと違う点はお誘いの声かけだけではなく、より意識して今の生活について伺い情報を集めることであった。

これはもちろん、私たちの興味ということではなく、女川町の今を正確に把握することで、今求められる必要な支援につなげていくということが目的であった。

特に教えていただきたいのは、買い物のこと、お仕事のこと、ご家族のこと(家族構成など)、今後どのような支援があるとよいかということであった。

また次回企画している「移動動物園」の告知と合わせて、動物と触れ合うことに抵抗がある方や、嫌な思いをされる方はいないかについても伺うこととした。

お声掛けは一軒、一軒、チャイムを鳴らしてお時間をいただくので、毎回とても緊張する。

特に今回はお話しにくいことを聞いてしまうのではないかとさらに緊張が高まる。しかし、毎回すぐにその緊張はなくなる。

女川町のみなさんが、ドアを開けてくださり笑顔で話を聞いてくださるからだ。

こちらが恐縮してしまうくらい明るく迎えてくださるので本当にありがたいと思う。

今回は1人ずつ分担を決め、各ご家庭を回らせていただいた。

それぞれ、お話しくださりやすいように考えながら話をすすめた。

「すり身汁ってご家庭でよく作るのですか?」「さんまが水揚げされたけど、新鮮な魚はどこで買うの?」

「もともとこの地区だったんですか?」「11月に、馬や山羊や犬とか連れてこようと思うのだけど…」などなど。

もちろん無理にお話を聞き出すことはしないように気をつけた。

今回のヒアリングで得られた情報は以下の通り。

① 買物について

- ・車のある方は週に1~2回、石巻まで買い物に行く。(ご近所で乗り合わせて行かれる方もいる。)
- ・ヨークベニマルの送迎バスを利用する。
- ・週に2~3回、移動販売車が来る。(店頭購入より割高。)
- ・歩いていけるところに「百貨店」という商店ができた。

② 仕事について

お話をいただけた方はごく少数。「仕事に行っている」という話はうかがえても、内容まではうかがえなかった。

あくまでも推測だが、生活のため希望ではない職種でお仕事せざるを得ない方も多いのではないかと。

女性の方はアルバイトで中古車販売店などで働いている方もいた。一部、漁を再開されている話もうかがえた。

③ 家族構成について

こちらでも直接伺うことは難しかった。清水地区には様々な家族構成の方がいらっしゃるようであった。

その家族構成、たとえばお子さんがいらっしゃるかどうかによって、お付き合いされる方が異なるようであった。

また昼間在宅されていても、ご近所の様子が分からなかったり、表に出て交流される機会はそれほどないとのことであった。

④ 支援活動について

- ・遠くの方が忘れずに気にかけてくれることがうれしい。
- ・人が集まる機会になり、顔見知りができうれしい。
- ・何かないと集会所には行かないので、時々来てほしい。
- ・もう充分いただいたから、こうしてほしいという希望はない。
- ・子供向け、若い世代向け、年配者向けのイベントがあると嬉しい。

⑤ 移動動物園について

- ・子ども達が喜ぶと思う。
- ・とても楽しみ。
- ・予定をあけておく。
- ・いやな思いをされる人はいないと思う。
- ・小型犬を飼う方が増えたので、癒されるのではないかと。

今回、お声かけの際にお話をうかがうということであったが、私たちは他の活動場面でもお話をうかがったり、

自分たちの想像力を働かせる中で、いま必要とされる支援について考えなければと思った。

ほぼ初対面の私たちにお話をしてくださった清水地区の皆さまに感謝したい。



フェイスペイント嬉しそう



漁具の網を修理するお父さん



仮設住宅の入口にお花を飾る方が多い

以上、簡単ではありますが、活動レポートとさせていただきます。

草の根的な活動ではありますが、少しでも早く、東北地方が復興出来るよう、微力ながら続けていこうと考えております。今回の活動に、物資ご提供いただいた皆様、支援金を寄付いただいた皆様、ご協力いただいた皆様に、感謝いたします。それとともに、引き続きご支援、ご協力の程、宜しく願い申し上げます。

4. 活動成果

(1) 経験、実績を残したこと

- ・女川のお母さんより、名物の「秋刀魚すり身汁」を教えていただいた。
- ・各家庭の味を習い、一緒に試食することで、お母さん同士も新たな味の発見があった。
- ・普段料理をしないメンバーが、生秋刀魚をさばくことが出来た。
- ・「一緒に作る」支援は、やはりヒトの間の垣根を取り払うのに、有効な方法であった。
- ・質問事項を絞り、目的を持ったヒアリングを行うことで、普段の暮らしぶりなど、ゆっくりとお話できた。
- ・一戸一戸、戸を叩かせて頂く事により、普段外に出ていらっやらない方々を、外出に促す事が少し出来た。
- ・手持ち花火は、人の心の垣根を取り去るのに、有効なイベントであった。

(2) 現地の状況を知れたこと

- ・イベント性の強い、興味引く活動であれば、引き籠る方々が、出て来やすい可能性がある事が分かった。
- ・未だ、女川の方々の多くは、被災された時のお話を繰り返される。まだ、聞くフェーズである事を実感した。
- ・仮設住宅を含めた生活や、仕事に関する問題が、多く存在する事が分かった。

(3) ネットワークが持てたこと

- ・女川町復興支援センターを始め、各仮設住宅の地区長さんなど、多くのキーマンとネットワークを持てた点

5. 今後の予定

(1) 10月6日(土)、7日(日)

みなと区民まつりに「女川町観光協会」として、高政さんと協力し代理ブース出店。
女川町の美味しい物産販売。女川直送秋刀魚塩焼き、さんますり身汁を販売。
多くの来場者に「女川町」の魅力を紹介。
東京で出来る支援活動として、年内最後の取り組み。

(2) 11月支援活動

11月9日(金)夜～11日(日)

女川町清水地区仮設住宅に再訪。屋外でのナイター活動は寒いため、昼間の活動を再開予定。
ミニ移動動物園(NPO法人あにまるに〜ず)。ワークショップ(なおやマン)。青空昼食会を開催予定。

6. 補足事項

(1) 参加者 (敬称略/順不同)

川端 陽子	小澤 雅志	三上 加寿子	瓜田 創
安部 由美	藤原 朗	小林 歩	片桐 稔
府川 めぐみ	後藤 奈津子	石垣 健	伊井 涼子
蜜口 真人	伊藤 貴志	小澤 徹	相原 朋子
クラウン・ジョーイ	さとう ゆみ	工藤 史大	

(2) 後方支援者 (敬称略/順不同)

尚礼会町会	橋本 翔二	近藤 尚之	若本 智子
河野 淳子			

(3) 食材等支援提供 (敬称略/順不同)

株式会社 モランボン	沓岐の蔵酒造株式会社	ホルモン焼き夏冬
------------	------------	----------

(4) 支援金寄付 (敬称略/順不同)

株式会社 ファンケル	もっと何かできるはず基金	株式会社IGS
目黒BAR GONE		

橋本 翔二	三浦 富美雄	城戸 隆興	守安 正治
川端 陽子	後藤 奈津子	府川 めぐみ	相原 朋子
小澤 雅志	藤原 朗	安部 由美	瓜田 創
小林 歩	片桐 稔	伊藤 貴志	三上 加寿子
工藤 史大			

(5) 現地受け入れ先

宮城県女川町災害復興支援センター (旧:災害ボランティアセンター) 様

皆様からの、あたたかいご支援・ご協力のうえで、成り立っております。

本当にありがとうございました。

私達は、被災地への支援活動を、継続していきます。今後とも、どうぞ宜しくお願いいたします。



平成24年9月30日
東北被災地応援団 白金支部
工藤 史大

★東北被災地応援団 白金支部 WEBサイト★

<http://www.onagawa.e-ouen.jp>

※このレポート内にあります画像の流用及び転用は、一切禁止します。

Copyright (C) 2012 Tohokuhsaichi-Ouendan All Rights Reserved.